

成果の説明書

(氏名) 小熊 仁	(学部) 地域政策学部
1 重要事項 ○ 研究活動 ◆ 科研費（基盤研究 C：個人・分担）に関する研究 今年度は前年度に実施した高崎市倉渚町における買い物困難者調査(65 歳以上 1522 名が対象)と伊平屋島、多良間島、波照間島における航空調査（各島全世帯が対象）の結果を取りまとめ、下記の通り学会報告・学会誌への投稿を行った。 <学会報告> ・ 小熊 仁・西藤真一・引頭雄一・福田晴仁「離島航空の経済価値に関する分析～沖縄県内の離島在住者を対象として～」日本交通学会第 82 回全国大会,2022 年 10 月 9 日,北海道大学工学部。 ・ 小熊 仁「地方都市における買い物困難者人口の推計と買い物環境改善に向けた住民の意識～群馬県高崎市の事例～」日本流通学会第 36 回全国大会,2022 年 10 月 30 日,常葉大学静岡草薙キャンパス。 <学会誌への投稿> ・ 小熊 仁・西藤真一・引頭雄一・福田晴仁「離島航空の経済価値に関する分析～沖縄県内の離島在住者を対象として～」『交通学研究』,第 66 号,71-78 ページ【査読あり】。 ・ 小熊 仁「地方都市における買い物困難者人口の推計と買い物環境改善に向けた住民の意識～群馬県高崎市の事例～」『流通』,No.41,査読通過済・校正中【査読有】。 ◆ 高崎市地域課題研究 高崎市における高齢者の運転免許証自主返納に影響を与える要因を明らかにするため、(公財)高崎交通安全協会において免許返納を行った高齢者を対象にアンケートを行った。アンケートの配布期間は 2022 年 8 月 4 日～2023 年 3 月 27 日までの 235 日間(約 7.5 カ月)であった。調査の結果、アンケートの有効回答枚数が 133 件と少なかったため、返納動機の類型化や返納動機を左右する環境要因との因果関係は検証できなかった。このことから、引き続き来年度以降も調査をすすめ、適正なサンプル数を確保し、分析を試みていきたい。 ○ 教育活動・社会活動 ◆ 教育活動 本年度は、「交通政策論」(前期)、「観光交通論」(後期)、流通経済論(後期)、「基礎演習」(後期)、「演習Ⅰ」(通年)、「演習Ⅱ」(通年)を担当した。Covid-19 感染拡大の影響から、「演習Ⅰ」は「航空研究班」「鉄道研究班①」「鉄道研究班②」の 3 つの研究グループに分かれ、グループによる論文執筆に重点をおいた指導を行った。そして、学内懸賞論文への応募を行い、「鉄道研究班①」「航空班」は優秀論文賞を受賞するに至った。「演習Ⅱ」では、年間を通し卒論作成指導を行った(13 名全員卒論提出)。その一方で、本年度後期からは Covid-19 感染拡大に伴う制限が緩和されたことから、「基礎演習」では日本航空、AIRDO、上田電鉄、鹿児島県、上田市等の協力のもと、鹿児島県、上田市等を対象に公共交通と観光活性化をテーマとしたフィールドワークを行った。学内業務としては、入試運営委員会の委員として、入学試験関連業務に携わった。 ② 社会活動 下記の委員会で活動を行った。	

- ・ 国土交通省北陸地方整備局関川水系流域委員会 委員
- ・ 国土交通省北陸地方整備局手取川水系委員会委員
- ・ 群馬県道の駅魅力度アップワーキングアドバイザー

2 その他の事項

2019年度高崎市地域課題研究「高崎市内請願駅における非市場材的価値の計測」をもとに執筆した論稿「鉄道駅開設による存在効果とその価値構成に関する分析～JR 高崎問屋町駅を事例として～」『運輸と経済』,(一財)交通経済研究所,第 81 巻第 10 号,115～128 ページが 2022 年度日本交通学会賞（論文の部）を受賞した。

3 次年度以降の計画・抱負

今年度は JSPS 科学研究費補助金「ボランティア交通従事者の参加意識・心理とソーシャル・キャピタルの関係に関する研究」基盤研究 C 2019～2022 年度 4030 千円の最終年度であったが、調査の実施に見通しが立たなかったため、翌年度へ延長となった。本年度は当該課題の調査実施に注力していく。また、高崎市地域課題研究についても適正サンプルを確保し早期の成果公表を行うために取り組んでいきたい。